



創り出すのは人と まちがふれあう場所

profile

氏名 昭和55年1月20日
生まれ。趣味はレコード収
集。花和地区在住。44歳。

Spotlight

スポットライト



イベント開催などでまちの
魅力を伝える

塩野谷 通さん

洞 爺湖で開かれる個性豊
かなイベントの数々。
舞台裏にいるのは、まちの姿
を伝えようと開催に奔走する
人々です。来てくれた人の記
憶に残したいことは何かー。
アートと自然にその答えを見
出した塩野谷さんもまた、町
と人との交流を作り出すため

力を尽くしています。

大学を卒業後、地元に戻っ
てきて仕事に打ち込む傍ら、
頭に浮かんできたのが新ら
しいイベントの実現でした。
家族で経営する花和地区の
ファームには、洞爺湖サミッ
トで使用されたヘリポートが
あります。広い土地を生かし
て何かできないか。思い付い
たのが、丘の上にテントを張
り、アーティストのライブや
作品を楽しめるフェスティバ
ル。「洞爺湖の良いところは
何だろうと考えた結果がア
ートと自然でした」と振り返
ります。

こうして始まった「LO
VE TOYAKO」の初開催は
2011年。当初から好評を
集め、用意した出展ブースは
すぐに埋まるように。次回の
開催を待望する声も多く寄せ
られるようになりました。

順調にフェスを成長させた
ように見えますが、苦い経験
も少なくありません。「ライ
ブの音がどこまで聞こえるか
分からず、周囲に迷惑をかけ
たこともありました。当時は

手探りでやっていました」。電
気もトイレも無い旧ヘリポ
ートを会場とするため設備の手
配も必要で、開催1週間前は
「あまり記憶が無い」と言う
ほど忙殺されますが、当日の
天候が荒れば苦労が水の泡
となることもあり得ます。

決して楽しいことだけでは
なく、プレッシャーにも悩ま
されたこれまでの歩みを思う
時に浮かんでくるのは、この
町のこと。「洞爺湖全体で人
を呼んでいるからこそ、うち
にも来てくれる。地元になし
ても人を呼びたいです」と開
催を続け、LOVE TOY
AKOは今年7月に第10回の節目
を控えるまでになりました。

収益を活用している清掃活
動には今年は50人ほどが参
加。創刊から携わる湖畔の情
報を伝える新聞「LAKE
TIMES」も新号の発行に
取り組みます。多様な私たち
で人と人の交流を実現する塩
野谷さん。「どんどん人が来
てくれる機会をつくりたいで
す」と、変わらぬ熱意を秘め
てこの夏を迎えます。

東奔西走



箱 根町との姉妹都市提携から7月で60周年を迎えま
す。今号の特集では、箱根町の広報担当者と協力して
紙面を作り上げました。古き良き伝統と自然にあふれた箱
根町との歩みが少しでも伝われば幸いです。(D.Y)

気 温が上がり夏らしくなってきました。この時期からは
学校の体験学習やイベントが多く、取材へ行く機会も
増えてきます。役場ではパソコンと向き合う時間が長いので、
取材で町の様子を見に行くことが1つの楽しみです。(Y.A)

町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災な
ど様々な情報に加
え、フルカラー版広
報紙もご覧いただけ
ます！

